

第6回岡谷市基本構想審議会

会 議 録

【出席者】

○委員（11名）

太田博久 委員、太田深穂 委員、小口泰史 委員、笠原新太郎 委員、上沼隆弘 委員、
小林妙子 委員、齋藤博子 委員、高見澤恒子 委員、中村文明 委員、新田隆史 委員、
横内文雄 委員

(※欠席者…今井誠 委員、唐澤剛 委員、薩摩健 委員、武田彰 委員、
中畑聖二郎 委員、中村進 委員、中山昇 委員、林幸夫 委員、山崎舜次 委員

以上9名)

(五十音順)

(説明者)

○担当部課（17名）

岩垂企画政策部長、小口総務部長、山岸建設水道部長
仲田秘書広報課長、城田総務課長、藤澤財政課長、白上税務課長、
師岡商業観光課長、小口都市計画課長、山田副技監、古川土木課長、中島水道課長
小松秘書広報課主幹、佐藤秘書広報課主幹、大槻商業観光課主幹、三澤水道課主幹、
浜水道課主幹

(事務局)

企画課	課長	岡本典幸
	副技監	山岡泰一郎
	統括主幹	松村佳江
	主幹	宮坂征憲、味澤勝一、清水亮、秋山仁志、野田康裕
	主査	新村尚志
	主事	水澤優馬

計 38 名

第6回岡谷市基本構想審議会 会議録

平成30年10月26日（金）
午後2時00分～午後4時00分
市役所8階 全員協議会室

1 開会

市民憲章唱和

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 部会審議 第1部会

企画課主幹	<基本目標「快適な生活を支え、住み続けたいまち」について概要説明>
部会長	施策が全部で3つある。順番に審議をしていく。1施策あたり15分を目安に審議を進めたい。「政策13 計画的土地利用の推進」の「施策13-1 計画土地利用の推進」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。
0委員	前回の「人が集い、にぎわいと活力あふれるまち」のなかの「商業・サービス業の振興」で、駅前利用と中心市街地をどのような位置づけにするのか、それをここは全体的に書いてあるものだから、細かくどのように絞り込んでいくのかというなかで、みなさんこちらの中で最終的にどのような方法で、ランドデザインみたいなものは出していけるのか。例えば単純に言うと、今までみなさんが中心市街地と言っていたものは、だんだん小さくなっている。その中で中心市街地、中央開発をどこまで縮小して考えるか、用途別とは違ってきますが、商業のことを考えると、それとあとは駅周辺、諏訪湖周辺の観光、健康推進みたいなことを含めて、あとその中で、中心市街地以外の方たちをシルキーバスだとか公共機関で網羅するようなまちづくりができていくと思うが、その中ではじめに、中心市街地、中心としているところが、どのような開発をするのかということが出てくるかどうか。
建設水道部長	建設だけではなく、商業の関係とか企画の関係とか絡むため、総体的な考え方となるが、岡谷市の人口が減少する中で、今後、まちの姿というのはスポンジ状に空き家が増えていって、活力が低下していくというようなことが想定される。その中で、岡谷市としてはできるだけ都市機能、計画にも記載があるが、商業・交通・行政・文化・医療などをできるだけ集積して、都市機能が集まっている部分をまとめることによって人口をそこに集め、歩いて健康に暮らせるようなことを目指したいが、実際には、周辺部をどうするかということが絡んでくる。その中で、岡谷市の活力という意味では、都市機能がまとまった地域をある程度集めていくということ、また公共施設もそういうところに集約していくことが必要だという考え方はしているが、まだ5総のなかでは具体的なところまでは踏み込んでいない。ただ、必要であるという考え方は持っている。
0委員	この先、これを中心にして構想ができていくが、その中では具体的なものは出てこないのか。

<p>建設水道部長</p>	<p>具体的に何をするのか、ということ聞かれると答えづらい。駅前の問題、駅南の問題もあるため、そこは進めていきたいという中で、施策13-1のなかでは、岡谷駅周辺整備に関して今後5年間、前期基本計画の中で取り組む重要な課題であると認識をしている。</p>
<p>0 委員</p>	<p>答えられないのは承知の上でお聞きしている。民間の土地もあるし、大変だと思うが、最終的には残していくわけにはいかない。どのようにすべきか、具体的などころにまで、それが分るような、見えるような方向で持っていつてもらいたい。総論だけではどうにもならない。</p>
<p>建設水道部長</p>	<p>ご意見として参考にさせていただきます。</p>
<p>0 委員</p>	<p>ぜひお願い致します。</p>
<p>E 委員</p>	<p>全てのKPIに関して質問したい。市民の満足度が14.7%と言われても、私どもは果たして適正な数字なのか、次の都市計画道路の改良率58.26%、次の上下水道の耐震化率、13.8%、39.1%というのが、スタート時点の数字として果たして妥当な数字なのか、それが理解できていない。その指数で、5年後は少しでも良い方向にしようという考えだけであって、ただ数字を羅列しただけでは意味がない。パーセンテージはある程度の基準があって出るものであり、何に対するパーセンテージなのか分らない。基本的な指数が、他の地域と比べるわけにはいかないかもしれないが、このパーセンテージは何を示しているのか、これでいいのかということも理解できていない。その辺を教えていただきたい。また、満足している人たちは良い。逆に不満足のパセンテージを把握して、その不満足度は必ずどうということが不満足かということが、アンケートをとると出てくる。そこを改善していかないと、満足度だけを上げていくことは無理。満足しているから。不満足度を消していかなければいけない。不満足度のパーセンテージを挙げて、それを低下させていく、というために動いていかないと、満足度は上がらない。その点はどうか。</p>
<p>都市計画課副技監</p>	<p>KPIの指数については、平成29年度に実施した市民アンケートの調査のひとつとして、住宅・宅地の整備について「満足している」、「やや満足している」のが14.7%であったということ。これを基準として、5年後はこれよりも10%、市民の満足度を上げよう、という考え方に基づいて16.2%とした。ご指摘の「満足していない」という点について、市民アンケートの中では「やや不満である」が11.8%、「不満である」が4%で合わせて15.8%と、「満足である」が14.7%で、「不満である」が15.8%でほぼ同じような数字だが、できる限りこれを逆転するような形で、市民の方が満足している土地利用を形成していきたいということで、住宅・宅地の整備に関する満足度を設定しているところである。また約45%が「どちらでもない」というのが現状である。</p>
<p>E 委員</p>	<p>主旨は十分に理解できるが、満足度ではなく「不満足度」を減少させるという方法でないと、市民のみなさんが満足していないところを直していくという形でないと、本来の形ではないと思う。それを目指していかないと、住み良いまちにならない。そ「不満足」のところを「普通」なり「やや満足」になれば、それだけ不満足度が下がるため、そういう形の進め方をしないと、いけないところを直していくことが重要だとおもう。ただ「満足度」が上がった、数字が上がっただけで終わってしまう。</p>

都市計画課副技監	満足している数字を示しているが、この中にはそれと同じくらい満足していない方もいるため、そういう方の意見がどういったところで満足していないのかという点も含めて、今後、検証していきたい。
E 委員	よろしくお願ひしたい。
I 委員	岡谷駅周辺、駅南側の土地開発について、機会があれば改めて提案したいと考えているが、市営住宅が良いと思う。災害にも強い、上下水道を備えた市営住宅を新しく作る。今、市営住宅が400何戸空きがあったり、高齢者の住まいが多いということで、前々回の「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」でコレクティブハウジングというものを提案した。それを岡谷駅周辺に持ってきて、資格がなくてもヘルパーとか日常生活する中で家族が高齢者にしてあげられることをできるような関係、それから、孫を保育園に送っていくとか、学校から帰ってきたら、学校の先生の資格がなくても、一緒に遊べる環境ができるというか、政策15の地域コミュニティにも関係してくるが、共助まち、「ゆるやかにつながるまち」ということで、いろんなパターンの人が住める住宅を市営でお願いできたらと思う。例えば朝食だけを提供する食堂とか私もやってみたいと思うが、岡谷に行くとき孫みたいなひとと遊べるぞ、とか、おじいちゃん、おばあちゃんがいるみたいで、子どもを安心して任せられるから留守にできるとか、そういった評判になれば、他市からも人口の流入が望める。それをドミノ式に、先ずそこで試験的に実施し、成功したらインフラが不便なところに段々そのコミュニティを広げていって、昔ながらの生活ができるような、そうせざるを得ないような環境を、岡谷に今までなかった住み方をやってみる、それを考えていかなければいけない時だと思う。
建設水道部長	ご指摘のように、市街地の中心部にそういった部分が必要であるという意見は理解できる。今後、人口が減少し、高齢化が進む中で、基幹となる地域にそういう住居が必要であるということは理解できる。先日ご説明申し上げたとおり、市営住宅は620戸中、479戸の入居状況という中で、今後、統廃合、また新しく作っていくという場合もあるが、駅前ということになると、市の活性化という意味合いの中では、商業が重要な部分でもあるため、ご提案の内容については参考とさせていただきます。
部会長	時間の都合もあるため、議事を進めさせていただきます。続いて「政策14 都市基盤の整備」の「施策14-1 幹線道路と交通網の整備」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。
E 委員	スマートインターの件は、ある程度煮詰まって、決まっているのか。
都市計各課副技監	諏訪湖サービスエリアへのスマートインターチェンジ整備につきまして、先般、小坂区へ区民説明会を開催する中で、市と意見交換を行ってまいりました。その意見交換の内容としては、スマートインターチェンジにアクセスする道路と、サービスエリアに接続するアプローチ道路の整備などの計画について、内容をお示ししたところ。10月の説明会では特に反対意見はなかったが、今後、地元の同意を得た上で、次のステップ、事業かできるよう取り組んでいきたいと考えている。
E 委員	よろしくお願ひしたい。もう1点。JRの高速化と複線化であるが、これをずっと掲げていっても、なかなかそれが、確かにこれは重要な課題だと思う。特に東京とのアクセスを考えた場合には、できれば岡谷まで2時間以内に、上諏訪と岡谷の間が単線になっているため遅延があった場合には全部の

	<p>電車が遅れてしまうという状況で、東京から来るお客さんから「中央線ってだめだよな」、「時間も掛かる」という話を良く聞く。何年間もやっている中で少しも進展していない。岡谷市が声を大きくしてアピールすることも必要だが、ものすごく大きな問題。これをどうやって進めていくのか。ここに書くだけではなく、東京都、山梨県、長野県もあるため、その中でどう取り組んでいくのか。</p>
<p>商業観光課長</p>	<p>この問題に関しては、毎年、中央東線沿線自治体で構成する「中央東線高速化促進広域期成同盟会」の中で、複線化・高速化について国およびJRへ山梨県知事、長野県知事も出向き、陳情等を行っている。そうした中で、高尾までの複々線化が進んで来ているが、松本までということになると、時間が掛かってしまう状況である。</p>
<p>E 委員</p>	<p>最後の最後まで、押し通して言い続けていくのか、少し変化球でいくのか、期成同盟会があるのでなかなか答えがでないと思う。商業会議所でもこれに関しては陳情を行っているが、なかなか進まない。JRが完全にソッポを向いている。山梨県内の路線が曲がりくねっており、高速化が難しい。今回、あずさが新型車両となったが従来と同じ速度で、車両自体が高速化されていない。どちらにしても時間短縮はできない。車両自体がそういう状況のため、非常に難しいことだとは思いますが、攻めていただきたい。同じ攻め方でいっても難しい。直球勝負ではなく変化球勝負は難しいか。</p>
<p>商業観光課長</p>	<p>毎年、変わったアプローチの形の中で、期成同盟会の中では議論されている。国、JRに対して要望を行っている。新型車両については乗り心地の改善などが図られている。高速化と複線化の早期実現を目指して取り組んでいきたい。</p>
<p>E 委員</p>	<p>難しい問題であることは承知しているが、多くの人が望んでいる、県内でも特に諏訪地域が一番、交通網の過疎化されたところであり、リニアも新幹線も通らない地域になってしまった。高速道路も車が自動運転化されれば、どのように変わるのか心配になるところでもある。先のことはどうなるかわからないが、将来を見据えて取り組んでいただきたい。</p>
<p>G 委員</p>	<p>岡谷の道路は非常に分かり難いという話をよく聞く。特に、岡谷インターを降りたトラックが下諏訪方面に行きたいのに、道を間違えて線路の前を曲がって田中線に出ようとする車がかなりある。大型トラックやバスが私の会社でUターンして出て行くが、非常に分かり難いという指摘を頂く。道路等の維持改修について記載されているが、そうした点について、道路を分りやすくする、もしくはもう少し別な形で道路に接続するものを造るとか、そういう計画等はこの基盤の整備の中に出てくるのか。</p>
<p>都市計画課長</p>	<p>狭隘な道路や一方通行が多いということで、分かり難いという指摘は頂いているが、以前に比べ、カーナビなどの普及や、主な幹線道路、国道20号バイパスや主要地方道の下諏訪辰野だとか、岡谷茅野線など主要な道路はそれなりに整備されているため、以前よりは分りやすくなったと思っている。岡谷の場合、線路と河川と国道20号が斜めに交差する部分が多いため、碁盤の目のようになっていないという意味では分かり難いということもある。場所によっては岡谷市独自の都市サインを設置している。カーナビなどを活用して頂くことが現実的であると考えます。</p>
<p>G 委員</p>	<p>カーナビがなくても、わかりやすいまちにすることが、ひとつの考え方。これは意見。</p>

E 委員	シルキーバスの利用状況をみると、年々減少している。交通弱者にとって必要なものであると思うが、減少している要因は市で把握しているか。
商業観光課長	シルキーバスについては、総利用者数は減少しているが、1便あたりの利用率については8.6人で増加してきている。要因としては、利用される時間帯や日にちなど、運行日数を減らしてきている点もある。何年か前に調査を行ったところ、利用者は60歳以上の女性の方で、買い物や通院での利用が多い。このため高齢化が進んできているなかで、人口減少もあり、利用者数減少の要因のひとつとなっていると思われる。
E 委員	高齢化が進むと、高齢者の乗車が増加し、若い人が乗車しない、今、団塊の世代が70歳ですから、増えてくるべきものが減っている。路線の見直しはいつも行っているのか。
商業観光課長	毎年1回、乗降調査を行い、その中で、利用者の方の意見を伺い、路線や時間などについて見直しを行っている。高齢者の利用は増加しているが、免許の自主返納が進んでおらず、60代、70代、80代でも車を運転される方が多い地域でもある。バスだと周回すると時間がかかることから、自家用車での移動になってしまう。利用者は高齢者が多いが、そうした部分で利用が少なくなっている。
E 委員	乗車率が下がり赤字路線となると、路線を廃止してしまうのか。それともシルキーバス全体で捉え、乗車率が少ない路線でも維持しているのか。高齢ドライバーによる事故が多くなっており、必要な交通機関。折角あるのに使わないのか、使い勝手が悪いから使わないのか分らないが、赤字路線であっても継続していただかないと、余計に利用者が減少し悪循環になると思われるため、ご配慮を頂きたい。
商業観光課長	ご指摘のとおり。利用者が減少したからといって、すぐに廃線ということはしていない。1年間を通して全く利用されないバス停を廃止するといった見直しや、他の路線へ組み入れて運行するなどには行っている。組み入れたことにより時間が長くなり周回が遅くなるなどの悪循環的なものはあるが、利用がされなくなったから廃止するということはない。
部会長	PRが不足しているのではないかと思います。老人クラブの役員を務めているが、各地域で行われている定例会の場での利用促進に向けたRPが少ないと思う。今年、広報に無料券を付けていただき、「いいね」との声を聞いた。高齢者が増えてくるため、親切な案内、説明をしていただくと利用者増につながると思う。また、アピタができた時に待合所に屋根がないため、暑いときや雨の日が困る。一方で建物の中にいると、高齢者であるため、バス停まで出てくるには時間が掛かってしまう。屋根を付けて頂いたらありがたいとの話を聞いた。最近、注意してみたらバス停で待っている人がいない。高齢化が進むため、やさしいまちづくりに向けて、取り組んでいただけるとありがたい。
I 委員	生活道路について、市では救急車、消防車が入れないような道路はどのくらいあるか、把握されているか。
土木課長	手元に資料がないため詳細は分らないが、4m未満の道がほとんどそのようになる。2mあると建築法でいうと建築の路線になるため、そういう道路に関して本来は中心から2m下がって4mの道を確保して、建てないといけないことに法律上はなっているが、なかなか遵守されておらず、塀などがあ

	<p>り結局2mの道しかないという状況にある。消防では救急車が入れない箇所を把握しており迂回するなどの対応を行っているが、消防の広域化により、地元の地理に詳しくない担当もいるため、手違いがある場合もあるが、基本的には確認している。土木の方では救急車の状況について把握できないが、2mくらいの道とか4mに満たない道は全体の3割から4割くらいだと把握している。後退整備事業という事業を行っており、中心から2m離れてということ、国の補助を頂きながら進めており、少しずつ解消を図っている。計画的にどんどんやるというわけではないが、地道にやっていく作業は進めているため、ご理解をいただきたい。</p>
<p>I 委員</p>	<p>パトロールもしていただいたり、活動されていることは存じているため、今後もよろしくお願ひしたい。</p>
<p>部会長</p>	<p>それでは、続いて「施策14-2 上下水道の維持・整備」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
<p>E 委員</p>	<p>KPIについて、上水道の耐震化率が13.8%、下水道が39.1%。これは間違いなく上げていかないと、いつ起こるかわからない地震のために必要だと思うが、これは何年ぐらいかけて、全施設の上下水道を耐震化してく予定なのか。</p>
<p>水道課長</p>	<p>耐震化率については、上水道と下水道で基準が異なる。上水道については、全管路延長346kmに対するパーセンテージであり、全延長に対して13.8%で27年度の状況。下水道管路の耐震化率は、個別計画にあるように「総合地震対策計画」を策定し、重要な施設から流域の幹線までの耐震化を進めるものであり、44kmを対象に何%できたかということで指標を作っており、上下水道で若干異なる。耐震化率をKPIとした理由であるが、豪雨や地震等が頻発する中で耐震化を進めなければいけないということで、設けたものである。何年かけていくかという点であるが、上水道も下水道も全管路を耐震化するためには、60年から70年はかかると思っている。これについては、現状で上下水道とも今十分に使える状態にあるものに対して、耐震化のために掘り起こすとなると全てを掘り起こすとなると費用がかかるため、これは結果としてみなさんの上下水道料金に跳ね返ってしまうため、先ずは上水道であれば、耐震化されていないといわれている管種のものから順次交換をしていくということで考えており、老朽化した鑄鉄管からはじめまして塩ビ管、次の●●管という形で、順次交換して行くように計画している。現在のところは5年後に約5%あげていくということで考えている。計画的に実施しないと、全部で346kmあるため、10万円/mでも346億円かかってしまうため、古いものから順次やっていくということで考えている。下水道に関しては耐震化が必要な44kmについて計画的にはじめ、耐震化が必要な施設までの管路については39年度までに全部直していくというように考えている。その他、ご家庭に行っている管路については上水道と同様に傷んだところから順次耐震化していくため、60、70年はかかると考えている。</p>
<p>E 委員</p>	<p>どちらにしても、上下水道は受益者負担が大前提だと思う。岡谷市の上水道は非常に安いという話を聞くが、状況はどうか。</p>
<p>水道課長</p>	<p>水道料金については、県内19市中、安い方から2、3番目位に位置しており、かなり安い状況。ただ、諏訪管内だけでみると、6市町村中3番目になっている、諏訪市と下諏訪町が圧倒的に安く、県内でみてもNo1、No2くらいの安さであるため、湖周で考えると岡谷市は高いと言われてしまう</p>

<p>E 委員</p>	<p>が、県内の中で比較すれば安い方であるということで、ご理解を頂きたい。</p> <p>そういったところが市民に届いていない。湖周の諏訪と下諏訪が安いということになると、何で岡谷が高いの、ということだと思う。なかなか打開策はないと思うが、日本のいけないところで、飲料水は蛇口をひねれば出てくる国なので、水に対するありがたみがない国民だと思うが、最後の最後に困ったときまで引っ張ってしまうといけないと思う。今まで水道は毎年毎年少しずつ値上げしてきているのか。</p>
<p>水道課長</p>	<p>水道料金については、29年度、昨年度の7月から十数年ぶりに約9.7%値上げさせていただいた。これについては、古い施設が残っており改築していかなければならないことが1つと、人口減少により収入が減少するためそれに対する再構築をしていかないといけないということで、今18の水源が稼動し水をつくり各家庭に送っているが、今のまま水量が減っていくなかで、18水源を活かしていくわけには行かないが、岡谷市の水道の施設のつくりそのものがそうしないとできない状況になっているため、ひとつ、ふたつと徐々に休止して動力費をかけない状況つくっていかなければ水道料金は上げる一方になってしまうため、再構築をするということで、料金を上げさせていただいた。</p> <p>下水道については、平成10年に値上げして以降、20年間値上げしていない。それぞれの料金については3年に1回の見直し時期を設け、向こう3年間どうするか検討することになっており、今年度については下水道料金の見直し時期ということで、現在検討を進めているところであり、これについては、社会情勢や近隣市町村、事業そのものの財政計画を見ながら適切な料金を設定していきたいと考えている。</p>
<p>E 委員</p>	<p>適切な料金を徴収していかないと、最後にツケが回る。市民のみなさんにご理解を頂く中で、少しずつでも値上げしていかないと最終的には行政の負担になる。福祉のほうに回るのはあまり言わないが、水道料金が上がることには理解をいただきにくいので、常に市民のみなさんにPRをしていただいたほうが良いと思う。</p>
<p>G 委員</p>	<p>耐震化に60年から70年かかるとのことで、やはり老朽化している時に、万が一何かあった時、火災があった時に水が頂けないというところがありますので、急かすわけではないが、古いところから順次替えていっていただきたい。またつい最近、糸魚川の大火の現場を見てきたが、そこで思ったのは消火栓が少なかった。消火栓を減らす方向でいるようであるが、できれば維持、若しくは新しく替えていただくような形で進めていただければ、ありがたい。これは意見であるため、よろしくお願ひしたい。</p>
<p>部会長</p>	<p>そのほかありますか。</p> <p>(発言する者なし)</p>
<p>部会長</p>	<p>それでは、基本目標「快適な生活を支え、住み続けたいまち」については以上となりますが、全体を通じて意見があればお願ひしたい。</p>
<p>E 委員</p>	<p>「上下水道経営戦略」とは、先ほどの3年毎の見直しをしていくということなのか、それとも耐震補強のことなのか、どちらの戦略なのか。この文言だけでは理解できない。どういった経営戦略なのか。</p>
<p>水道課長</p>	<p>経営戦略は国で示したものであり、企業会計のような事業に関して、确实</p>

な経営を行うため、短期的なものではなくある程度長期を見据えた上で、良いかどうかを考えなさいということで国が示したもので、31年度までに全ての市町村でつくることになっている。今回、岡谷市では、向こう10年、30年から10年間の企業会計としてどのようにやっていくか、どのような事業をいくら掛けて、それに対して収入をいつ頃、料金をどのように見据えて、どのくらいお金がかかるので、どの時点で料金を上げなければいけないかを見据えた計画を作らなければいけないことになっており、6月議会にかけて、今ホームページに公表している。これにより今の状況で、例えば何年後ぐらいには一度料金を改定しなければいけないとか、そういう見込みを立てながら水道事業を継続していくという計画を立てた。施設の改築や料金の収入を含めた総括的な、ある程度長期の財政計画を示したものと考えていただきたい。

E 委員

先ほど申し上げた市民へアピール、こういう形になりますよ、というのは議会が通っていることです。それがスタートしているわけですね。それがホームページ掲載され、市のみなさんが決断されているという考えでよろしいか。

水道課長

議決案件ではないが、説明をさせていただいてホームページに掲載している状況。例えば何年後くらいまでにどのくらい改築事業にお金を使うので、何年後くらいには一回料金を上げなければいけないかをシミュレーションしたもの。料金に関してはその時々々の3年に一度の財政状況を見ながら整理をしていきますので、突発的に大きな修繕とか入りますと、内部留保資金は減ってしまいますし、大きなものが無ければ内部留保がある程度貯まり料金改定をしなくても良いかもしれない。常に状況に応じて見直しをしながら、10年ちゃんとやっていく状況のもの。

E 委員

ホームページに掲載しただけでは、市民のみなさんが閲覧されているのか、ホームページだけのカウンターなのか、この経営戦略を閲覧された方をカウントされているのか

水道課長

閲覧している方のカウントはしていない。質問等も寄せられていないため、見ている方はほとんどいないと思っている。市民のみなさんが一番気になるのは、どのくらいの料金になるのか、耐震化をはじめとして来年度どの辺を工事するのか、ということを変えられており、10年先どうなるかというのは、当然水は出て当たり前であり、下水道は流れて当たり前という感覚だと思う。私たちは、第一として基本は安全な水を出して、下水道をきちんと流すというのが基本的な考えであるため、それを継続する中で、計画もあっていただければなおありがたいという判断でいるのが現状。市民のみなさんにも見ていただきたいが、この事業を継続する私たちが常にそれを考えながら、きちんとした計画の下に、ちゃんと継続して財政的に問題ない状況で運営していくということをメインに考えている部分もあるため、そのようにご理解いただきたい。

E 委員

ホームページを見なければいけないというのは、市民の義務ではない。掲載してあるからいいということではなく、しっかりPRをしていかないと、日本は水はタダみたいなものだという考えであるため、それを変えていくには大変なことであるため、その辺を捉えていかないと、唐突にホームページに掲載してあるといわれても、そこで市民のみなさんが納得するかということ、なかなか難しい部分があるので、どんな戦略を練られて、それが市民のみなさんに周知できるのか、何らかの方法を考えていただきたい。

I 委員	「快適な生活を支え、住み続けたいまち」はそれぞれ個々に対しては十分だと思うが、今後のことを考えると人口減が一番大きな問題。魅力的なまち、他市から流入してくるような、インフラ整備など、人口が増えれば商業も生まれるし、雇用も生じてくるため、魅力的な住まいが基本になるのではないかと思う。
部会長	時間の都合もあるため、部会審議のまとめに移りたい。発言できなかった方や、気づいた点については質疑等連絡票により事務局へお願いしたい。では、事務局からまとめをお願いします。
事務局	ホワイトボードに記載されたものを抜粋して、全体審議で報告したい。
部会長	まとめについては、ただ今の内容でよろしいか。 (異議なし)
部会長	この内容を、全体審議の中で第一部会の部会審議のまとめとして報告させていただく。 以上で部会審議を終了します。

(2) 部会審議 第2部会

企画課主幹	<基本目標「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」について概要説明>
部会長	基本目標「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」につきましては、施策が全部で6つあるので、1つの施策について7分を目安に審議を進めていく。 まず、政策15「地域コミュニティの振興」の施策15-1「市民総参加の推進」についてご意見、ご質問をお願いしたい。
Q 委員	15-1、15-2に関連して。市民総参加とうたわれているが、市民の参加が少なく、関心のない市民が多いと感じている。具体的に市民の参加を促す取り組み、アイデア等はこれを見る限り見えてこない。どのようなことを行っていくのか。
企画課長	市民の皆さんに関心を持っていただいて、区の方にも参加していただきたいという思いはある。岡谷市では、市民総参加まちづくり基本条例を制定して取り組みをしている。参加については強制もできないので、いろんな行事について、積極的に広報やホームページで周知をしている。地区の部分については区長会と連携しながら、地区の行事に参加してもらいたいと取り組んでいる。具体的な案を持っているわけではないが、市としては、いろんなところに参画していただきたい。この基本構想審議会も市民総参加の取り組みの一つ。基本構想審議会もそうだが、昼間忙しいということであれば夜の開催等についても工夫しながら積極的に取り組んでまいりたい。
企画政策部長	補足になるが、第5次岡谷市総合計画の策定にあたっては、できるだけ市民の声を取り入れていきたいということから、こういった審議会、アンケートを行っている。また、市政懇談会という形で市民の方に来ていただくというだけではなく、市民の皆さんが集まっているところへ出向いてアンケートやご意見を聞く、例えば、こどもの国、勤青ホーム、成人式へ行ってアンケートを始めている。市のほうから積極的に出向いていくということも視野にいれながら、どんな形が有効か検討していきたい。

<p>Q 委員</p>	<p>例えばだが、下諏訪では地域おこし協力隊の2名が中心となって、行政とも絡みながらイベント等の活動を行っており、茅野市でも17、18人地域おこし協力隊がおり、ものすごい規模でこれからどうするんだということを考えていたりして、岡谷の若者とか、もっと興したいという人間を集めて既存の取り組みではなくどうしたらいいのか研究したほうがいいと思うが。既存の取り組みだけではなく、どうしたらいいのかというのは住民の中にヒントがあったりするのでは、是非そういった機会を設けて、多少の予算もかかると思うが、そういった取り組みを検討したらどうか。岡谷市にいと他のほうが活発だと思ってみている。</p>
<p>企画課長</p>	<p>地域おこし協力隊については、来年度から2名程採用するというを進めている。若者が積極的に取り組めるような取り組みの検討していく。</p>
<p>J 委員</p>	<p>いろんな役をしたくないという人が多い。次の役員を決めるといった時に、何度も足を運んでも断られてしまったりとか。出る人は出るが、避けてしまう人達が積極的にでていただければ。出れば自分のためになることも沢山あるので。経験してみたら楽しかったという意見もある。</p>
<p>F 委員</p>	<p>なかなか難しいということはある。努力していることもわかる。市政懇談会について平成25年度が多かったのは何か原因があるのか。</p>
<p>秘書広報課長</p>	<p>各年度によって人数のとらえ方にばらつきがある。資料の修正をお願いしたい。だいたい300人程度で推移している。平成25年度が飛び切り多いというわけではなく、ほぼ横ばい。</p>
<p>D 委員</p>	<p>外国人の方もイベント等に参加して欲しいということだが、現状、町内にも外国人の方がおり、町内子ども会にも入っていただいているが、日本語が通じない。子どもが通訳になっている。町内の役員も回せないし、参加して欲しい気持ちはあるが、相手側からは、日本語がわからないので入れませんといった断られ方をしてしまう。子どものイベントはいいが、そういった大人のイベントには声をかけづらい。そういった部分については何か取り組みはあるのか。</p>
<p>企画課長</p>	<p>岡谷市では文化振興事業団というものがあり、その中に国際交流センターというところがある。その中で多文化共生のまちづくりということで市から委託させていただき取り組んでいる。日本語ができない外国人もおり、まずは日本のしきたり、風習といったところから理解していただくということで年4回広報誌を作成したりし、文化を知っていただく。年1回市内の公共施設を見学していただいたりという形でまずは日本に馴染んでいただく。その次に日本語を理解していただいて行事に参加していただく。地道な取り組みになってしまうが、そういうことで在住外国人には、岡谷に住んでいただいていたよかったですとなるように取り組んでいる。</p>
<p>部会長</p>	<p>続いて、施策15-2「地域活動の振興」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
<p>J 委員</p>	<p>区への加入率の推移の中で区に加入しない人が増えているのが現状。小井川区の区長さんとも話をさせていただき、現実としては区に入らない人が多くいるということをお聞きした。他の区についても知りたい。区に入らないと広報等も届かない。市民であっても市の行事等も知ることができない。ゴミ出しとかはどうですかと聞いたら、ゴミは市なのでということで。最近、</p>

<p>部会長</p>	<p>お年寄りでひとり暮らしで隣組等の活動等もできないということをする人もいるという。ライフスタイルの多様化によって役なども嫌だから、そういうことで若い人達も反対。反対に、外国人が暮らしているアパートでも管理人さんがしっかりしていれば区費を払っていただけるところもあると聞いている。高齢化になればそういうお宅は増えてくるし、自分達もそういうところは増えるかなと思うときに、みんなで作り上げるというときに心配になるのでお聞きしたいと思う。</p> <p>最近、区への加入率が減ってきているということについて、現状とか、今後どうしていこうとかいう考えはありますか。</p>
<p>秘書広報課長</p>	<p>資料を見ると平成 28 年度以降下がっているのだが、委員さんの言うとおりの、価値観の若い人なんかは、入らない。区費等もかかるので減っているのが現状。市としては、転入の際に市民課のほうで区への加入の案内等を行っているが減ってきているのが現状。本当は皆さんそれぞれの区に入ってみんなで支えあっていく、地域の活動を活性化していくことが必要だとは思いますが、強制もできないものだから悩んでいる。若い方は地域のお祭りには参加したいという方が多いので、そういうものに参加したきっかけで他の行事、近所仲良く。きっかけを作って隣同士の付き合い、近所同士の付き合いが増えていけばいいかと思っている。</p>
<p>会長</p>	<p>三沢区では若い人は入っている。入ってくる人は若い人で抜けるのは年寄り。現実には。区で管理しているのは 3,100 くらい。市のほうからいただくのは 3,400 ある。300 差がある。アパートとか隣組みの真ん中にいても入らない人がいる。年配の人で。そうなると本当に考え方。新しく入ってきた方で本人を説得するが「私はいいです。」と逃げられる。だから逆に言うと、若い方のほうが入って伸縮する。「入ります。」とちゃんと窓口まで来てくれるのが現状だと思う。市のほうで紙を配っていただいているので区に来るのは、次の問題で。情報があれば私共いくが。各区によって差はあると思うが。この部分の政策の 15 は重要な部分だと思っている。いままでどちらかということのようなくくりが無かった。一番最後の部分に地域コミュニティ、それから財政の問題。その大事な部分について書いていただいているということがあり、拝見すると、まさにこの通りでやっていかなければ行けないと思っている。整合性があるのかということ、地域コミュニティという言葉が出てきているが、62 ページの地域福祉の段階で、地域コミュニティという言葉がスタートしている。それを市のほうで共通認識で地域コミュニティという言葉で財政の部分とか地域の活性化で共通して使っているということでのよいか。</p>
<p>秘書広報課長</p>	<p>例えば、介護福祉課のほうで地域で要援護高齢者を支えようと人材育成と研修を行っているが、そういったものが地域コミュニティの向上、発展に繋がる。全体でとらえていると思う。いろんな部署がまたがってのことかと思う。</p>
<p>Q 委員</p>	<p>間違っているかもしれないが、岡谷に戻ってくる前に松本のアパートに住んでいた。松本は区に入らざるを得なかった。ゴミ出しとかで、ビンの日とかごみ収集の最後に区の誰かが担当になってゴミを回るなど、区に入らないとゴミ出しすらできない。ビンとか区の役員が仕分けとかしていた。岡谷は入らなくてもいいのかというのがいまさら思った。</p>
<p>企画課長</p>	<p>実際は、松本も区に入る入らないではない。松本は区費とは別にゴミ処理代を徴収している。ただ、お金を払わないとゴミを出せないというのは行政</p>

<p>Q 委員</p>	<p>としてまずいというのは聞いたことがある。岡谷のやり方がいいのでは。</p> <p>区に入らないと居心地が悪いというのが松本であって、入らなくても居心地が悪くないのが入りづらいのか。それが正しいとは思わないが。</p>
<p>D 委員</p>	<p>区の分け方について、小井川区に住んでいるが、学校は神明小学校。そうすると今井区の子が多くて区の行事というと小井川小学校の子達ばかりになってしまい、アウェー感がある。小井川区は上の原の一部も入っているのがその人達は見たこともない。区の分け方はどういう分け方をしているのか、境界線がどういうふうに組まれているのか。</p>
<p>財政課長</p>	<p>区の分け方は歴史があり、市側でも区の境界が一部わからないようなところもある。図面は持っているが、区長さん方が決めている部分も長い歴史の中である。直接区の境がここだというのは決めていない。歴史の中で作られてきていると認識している。</p>
<p>部会長</p>	<p>学校のほうの区分けも後からだったりと、いろいろ絡まってきてしまっているか。</p> <p>施策 15-1、15-2 で共通する地域、市民総参加の部分について、皆さんの意見を聞く中で、それぞれの単位で大事。区は区の良いところがあり、学校は女性の参加率が高かったり、それぞれの特徴がある。逆に行政のほうから、どれかに特化するのではなく、広くそういう場を活用した協力してもらえようという試み、挑戦をしてみてもいいかと思った。皆さんもそうだと思うが、何かきっかけがあると新しい発見もあり、ハードルも低くなり、参加もしやすくなる。もう少し広くいろんな場を活用するというのもあり方の一つではないかなと皆さんの話を聞きながら思った。</p>
<p>部会長</p>	<p>続いて、政策 16「市政運営の推進」、施策 16-1「持続可能な行財政運営」について、ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>
<p>F 委員</p>	<p>行政改革の推進について、計画の進捗管理にもかかってくることだが、こうやって計画が作られ、担当部署でさまざまな施策が実行されてき、それをチェックする。そのチェックする部分が行政評価。外部の市民の方、専門家、有識者が入ってチェックがされていると思うが、そこらへんどうなっているのか伺いたい。</p>
<p>企画課長</p>	<p>行政改革審議会という委員会を設けている。この基本構想審議会と同じく、各界の団体の代表者や、区長会の方も入っていただき審議をしている。行政評価の部分について事務事業について毎年評価させていただき、公表をさせていただいている。その中で、部門を選定して、審議会の委員に選んでいただき、その中で委員との意見のやり取りをしている。</p>
<p>F 委員</p>	<p>プランを立てて実行していく。第 4 次を見ても、今回のものを見ても、ほとんど手がついていないのではという印象を受ける事業がある。それがどうなっているのかという不安を感じるのと、抜き出して評価するとのことだったが、本当は全ての事業で市民の関係者の評価が必要だと思う。興味関心のあるものはわかってもそれ以外はわからない。是非、関係者を交えた評価をしていくとプランが実現されていったり、ブラッシュアップされていくと思う。5 総の PDCA サイクルの「C」の部分についてのやり方を考えていただきたい。どうしてもやった形だけでとらえられがち。</p> <p>健全財政の中で、広告収入ということがあり、市報等のいろんなところにステッカーがあつたりするが、例えばカノラホールでネーミングライツのよ</p>

<p>企画課長</p>	<p>うなものは考えられないのかと常々思っている。</p> <p>行革プランの中にもネーミングライツというものを設けて取り組みをしている。ただ、ネーミングライツというそれなりにスポンサーを立てるという形になる。長野サッカー場がネーミングライツをやったが出なかった。そういうところを見ると岡谷のカノラホールはどうかということではいかなかった時がある。カノラホールという名前でも有名になってしまっているの、そこにまたネーミングライツはどうかということもあり躊躇している。そういう機会があれば積極的に取り組んでいきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>この市政運営については大変いいまとめ方をしてもらったと思っている。くくりとしては大事な部分かと思う。その中で、126 ページの現状の中に「少子高齢化の進行により、財政構造が硬直化しています。」とあるが、この文章が嫌い。なぜかという、私の知る限り「財政の硬直化」という言葉は、50 年前からあり、そういう言葉が出てくる。それは、少子化によって財政が硬直化がなっているかという要素は少ない。例えば人件費の高騰とか、あるいは市債の返済が多いとかそういったことで硬直化がされているということ。単純に外部の有識者に見られたときに、岡谷はその程度しか考えていないのかと思われる。今の市民減の状況についても分析した。この「硬直化」という言葉を違う言葉に変えていただけないか。少子化、高齢化で財政が硬直化はイメージがあまりよくない。</p> <p>もう一つ、127 ページの主な取り組みの中に「市税などの納期内納付の推進」というふうには、対応策の一番初めにくる。今の収納率は 97%かと思うが、そうすると、近年だんだん収納率が下がってきたと市民は見る。それを財政の頭の部分か。順番を変えていただけないか。ご一考いただければと。</p>
<p>財政課長</p>	<p>「財政構造の硬直化」の部分については委員のご指摘のとおりと思う。市債の増加が原因だとかが基本かと思っているので、検討させていただく。</p>
<p>総務部長</p>	<p>市税の期限内納付について話があった。97%という数字は、その年に税金をお願いして、その年に納めていただくことを「現年」といっている。その年に収めていただかず、翌年以降に収めていただくことを「過年」という。両方足したときの数字が 97%となっている。現年の方、その年に収めていただく方が 99.1%になっている。限りなくほとんどの方が、中にはご都合があったりし、無理な方もいるが翌年以降に収めていただく方もいるが。この 99.1%という数字をもっと上げていきたい。つまり 100%にすれば過年の人はいなくなる。そういった思いもあったのでこのように記載している。状況はそのような形だが、委員のおっしゃるとおりなので、もう少し市税のところの取り組みについては、検討をしていきたい。</p>
<p>企画課主幹</p>	<p>委員の質問にありました、行政評価の関係につきまして、今年度の事務事業は現在 293 件を実施している状況となっている。</p>
<p>部会長</p>	<p>続いて、施策 16-2「公有財産の適量・適正化」についてご意見、ご質問があればお願いしたい。</p>
<p>F 委員</p>	<p>公共施設の維持というところで、前々回も旧庁舎のことを申し上げたが、いい活用方法が見つからず、かつ何かするにも非常な大きな金がかかるというのが大きなネックになっていると聞いている。岡谷の象徴的な建物でもあるし、あのまま朽ちていくという状況からは脱していかないといけないと思っている。思い切って市の財源が無ければ寄附を募るという方法もあるので。そもそも寄附で建てられた建物。耐震するには 3 億かかると聞いたが、</p>

	<p>集めようと本気で思えば集まるのではないかと思う。さまざまな方法を考えてやるべきだと思うがいかがか。</p>
企画政策部長	<p>岡谷市にとって、旧庁舎というのは大切だと思っている。消防が新たになってから、まずはしっかりと保存していくというところ。そのまま朽ちていくというのは絶対してはいけないと思っているので、活用についてはしっかり管理をしながら検討をすすめていきたい。</p>
部会長	<p>続いて、施策 16-3「ICT利活用の推進」について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。</p>
部会長	<p>用語集等があるのだと思うが、「ICT」という言葉が理解をされているという前提で使われているが、みなさんどうか。</p>
秘書広報課長	<p>インフォメーション&コミュニケーションテクノロジー（情報通信技術）ということだが、横文字については用語解説を付けていく。</p>
部会長	<p>標題のような形になっているので、通常の利用と別の形で、見てすぐに理解していただけるような出し方をさせていただければ。</p>
会長	<p>ここに来て横文字が多い。注意書きが多くなってもいいので、文章読んでいてわからないことがあれば下の用語解説を見ればある程度わかるか。70 歳以上の人はわからない。そういう時代はそこまで来ている。我々も勉強をしなければいけないが。教えてやって親切にやったほうがいいと思う。</p>
部会長	<p>続いて、施策 16-4「広域行政の推進」について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。</p>
会長	<p>広域行政については誰かが考えていかなければいけない時代。まさにこれでいいかと思う。広域行政の中に八ヶ岳寮があるが、あれは諏訪広域連合でやっているものか。岡谷の市民として注視するということが無気な気がして。精神障害の方多く入っていたのか。</p>
秘書広報課主幹	<p>八ヶ岳寮については、養護施設という形になっている。障害者の方が共同生活を送っている施設になっている。</p>
会長	<p>岡谷の出身の人はどれくらいお世話になっているのか。</p>
秘書広報課主幹	<p>現在のデータを持っていないが、岡谷市でも数十人の方が八ヶ岳寮に入っている。諏訪地区の方が入って共同生活を送っている。 広域でああいったものを抱えていくのはいいことだと思う。三沢区にはちよどつつじが丘学園があるが、諏訪地域で協働して考えていくことは、連携していくべき項目だと思った。その中でPRはできているのか。関わっていることをあまり知らないのではと思ったので。</p>
秘書広報課主幹	<p>施設に定員というものがあり、諏訪の平らに限らず、そういった共同生活を送りたいといった方は多くいる。施設において事前に面談。空きがあれば入れるし、無ければ入れないという形になっているので、大体 6 市町村のところうまく割合に当時はなっていた。</p>
F 委員	<p>理科大について今年度から公立化された。6 市町村別になったが岡谷市としてどういったことで関わっていくのか。</p>

企画課長	今年の4月から公立化になった。公立大学事務組合で運営をしていくことになるが、市長が副組合長になっており、大学の運営を見ていくという形になる。公立の大学なので、6市町村の企業と連携する等がメリットかと思うので、タックを組んで諏訪地域全体をまちづくりという観点も含めて取り組んでいる。
F委員	6市町村立の公立になって、今後大学ができる見通しはないと思うし、すごいチャンスだと思う。たまたま大学の先生と話す機会があり、岡谷に興味をもっていただいている先生もいるし、まちづくりにも参画していきたいという話も聞いている。是非、岡谷らしく、そういうスタンスで、諏訪全体の大学というものになっていって欲しい。その中で岡谷も是非どんどん関わって欲しい。
部会長	それでは、事務局の方で審議内容のまとめをお願いします。
企画課主幹	部会で出た意見について、全てについて発表ということはできないので、代表的な意見について発表させていただくので、何かあれば補足にて説明をいただきたい。
部会長	以上で部会審議を終了する。

(3) 全体審議について

会長	全体会議に移ります。最初に部会での審議状況について、事務局から報告をお願いしたい。
企画課主幹	<第1部会 議題 基本目標「快適な生活を支え、住み続けたいまち」での審議内容について報告>
会長	続いて、第2部会の報告をお願いしたい。
企画課主幹	<第2部会 議題 基本目標「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」での審議内容について報告>
会長	ただ今の報告について、補足、意見等あればお願いしたい。
各委員	<特になし>
会長	また何かあれば、質疑等連絡表を活用していただきたい。
企画課主幹	本日の審議会の議事録については、整い次第お送りさせていただく。確認をお願いしたい。 次回の審議会は11月1日(木)に行う。審議事項は、諮問案全体を通しての全体審議と、答申に向けたまとめを予定しているので、よろしくお願ひしたい。
会長	本日の議題は以上となる。

4 閉会

A 副会長	長時間に渡り、活発なご審議ありがとうございました。以上で第6回岡谷市基本構想審議会を終了とさせていただきます。
--------------	---